

本校の寄宿舎運営について

令和7年度4月より、本校寄宿舎は紀北支援学校寄宿舎との共同による運営を始めます。ここに、本校寄宿舎運営の維持、存続の検討に向けたこれまでの経緯や学校としての思いをお伝えしたいと思います。

近年、出生率が低下し、こどもの数が減少しています。また、特別支援教育の推進や補聴機器と補聴技術の進歩等により、聴覚に障害のあるこどもが就学において地域の学校を選択するケースが増えています。

平成25年度当時と比較しても、本校在籍生はおおむね半数程度となり、現在も減少傾向が続いている状況です。それに伴い寄宿舎入舎生も減少しており、今後も減少傾向が続くものと予想しています。

このままでは、寄宿舎運営が困難になることが想定されます。これでは、本校寄宿舎に根付いている聴覚障害への深い理解と文化を繋いでいくことが困難になる可能性があると考えました。

そこで、本校寄宿舎の維持、存続に向けて、紀北支援学校寄宿舎との共同運営について、令和5年9月より校内での協議を開始しました。その後、入舎生徒や保護者の方をはじめ、保護者全員へのアンケートやPTA役員会、学校運営協議会などにおいて意見聴取を行い、共同運営に向けた期待の声や不安の声を多く頂戴いたしました。いずれのご意見も、本校を大切に考えていただいている貴重な御意見であると受け止めています。

学校としては、令和6年4月末のPTA総会を経て、紀北支援学校寄宿舎との共同運営は、本校寄宿舎の維持、存続に向けて有効な方法であると判断いたしました。

以降、紀北支援学校との共同運営に向けた具体的な協議を進めるとともに、よりよい寄宿舎環境が整えられるよう、寄宿舎の内部改装等を進めています。また、令和6年12月から現在に至るまで複数回にわたり両校の舎生同士が交流を深める取組も進めてきています。

一方、令和7年3月には、本校では有志の生徒と捉えていますが、生徒代表としてSNS等で生徒自身の思いが発信されていることも承知しております。

本校寄宿舎運営にあたっては、これまでに本校寄宿舎が取り組んできた、安心して生活できる手話環境の維持、向上と集団の中で支え合いかわりあえる経験の蓄積を引き続き大切にしていまいります。そのうえで、寄宿舎生活の中でお互いの立場への理解を深め、人格や個性を尊重していくことの大切さを学ぶ機会につなげられるように努めてまいります。

今後も引き続き、本校教育並びに寄宿舎運営への御理解と御支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和7年3月31日

和歌山ろう学校 校長 吉田 幸子